OSAKA MUSEUM OF HISTORY

大阪歴友

Vol.4
2006. APRIL

大阪歴史博物館　友の会だより　No.6

手づくりの作品とともに
（川島テキスタイルスクール・松井校長先生撮影）

川島織物文化館と染色体験

近藤　信子

今年は十数年ぶりの寒い冬でしたが、2月17日30数名の参加者を得て川島織物の見学会が行われました。9時30分、京・出町柳駅集合、会社のある市原までは叡山電車で車窓からの風景を楽しみました。

川島織物といえば劇場やホールの緞帳や着物の帯などが思い浮かびますが、会社概要の説明を受けて、自動車・新幹線・飛行機のシートや各施設の内装等々、多岐にわたって使われているのには驚きでした。

参加者は「川島織物文化館・工場の見学」と「ショールの染色体験」の2班に分かれて楽しい一日を過ごしました。特に染色はテキスタイルスクールの先生と若い学生さんのご指導で4色の中から一色を選んで自分好みの色の濃さに染め上げ、皆ワイワイ・ガヤガヤと童心に返り、自分の作品に満足されて良いお土産が出来上がりました。

帰途、清水さん・長瀬さん（お二人とも参加者です：編集部註）と出町柳のレトロな音楽喫茶で長々と反省会?そして大阪へ。（友の会会員）

大阪伝統産業　茶の湯釜工房と菅細工

石丸　健子

平成18年1月28日と30日、近鉄布施駅北改札口前に9時30分集合。今回は工房の都合もあって2班に分かれての見学になった。参加者も追々に増え、28日は27人、30日は35人と大勢の人が参加され賑わった。

菅細工技術保持者の幸田正子さんにはじめてお会いしたのはヒョンなことからだった。友の会幹事、立案企画の人とご一緒に、下見兼面談のため、東成区役所・企画調整担当課長の金谷氏と面接、伝統工芸の意義や見所、聞き所等々ご説明をいただき、また区内のマップを50冊提供された。その重量に耐えながら地下鉄に乗り新深江にて下車。荷物は駅構内のロッカーに預け、鋳物師角谷征一氏の工房へ。連絡ができていたので心よく迎えられ工房内へ。工房のまわりにはしめ縄が張り巡らされていた。

角谷征一さんの説明を聞く

深江・菅細工づくりの実演（中央が幸田正子さん）

法明寺境内の「雁塚」（宮川良造さん撮影）

釜づくりの工程、原料、材質、調達、伝統の由来、伊勢神宮に納める「御神宝鏡」づくりの苦労話など、1時間半ほどじっくりと聞かせていただき、工房に別れをつげた。細い路地道を通り抜けて深江稲荷神社へ。宮司さんのご説明をうけ、見学者の利用範囲や昼食休憩時間の配慮など打ち合わせを。

そのあと、菅細工づくり、幸田さんのご自宅へと馴れぬ道を探し歩いた。ほどなくお宅の前で表札を見たりしていると、中から「どなたですか?」と問われ、訪問予定ではなかったが立ち寄った次第と告げると、「まあまあ」と中へ案内され、段取りやご苦労話など、また昔はこのあたりに菅が自生していたが、今ではご自宅の土地で少しあるばかりで、それでは足りずに地方にお願いして取り寄せているとのお話を聞く。案内された作業場には、人の背丈を越すような大きな笠が置かれていた。初めてお会いした人なのに、親切で熱心に説明された。お宅を出て、小雨の降る中、私たち2人は心に笑みを持ちつつ地下鉄新深江駅に向かった。

28日、30日、両日ともに和やかな雰囲気に包まれて見学を満喫した。中には出来上がった菅笠をかぶったり、写真を撮ったり、帽子がほしい、合羽があればと、三度笠心算りで散々笑い興じて、皆の気持ちも和気あいあい、盛り上がった。今もその様子が目に残っている。

今回はたくさんの資料もあり、見学された方達がそれぞれの想い出として残ればと、余計な説明は省かせていただきました。（友の会会員）

当日参加された会員の宮川良造さんから、深江稲荷神社のとなりにある法明寺境内の「雁塚」の写真を送っていただきました。深江周辺は古い町並みや数々の史跡が残っているところ。あらためてゆっくり散策してみてはいかがでしょう。（編集部）

驚きの寺内町見学「貝塚」

戸田　健治

寺内町巡りは、平野・八尾・久宝寺・富田林など府下の主だった所は見学してきたのですが、今回は貝塚御坊「願泉寺」の改修工事の内部を見せていただいた。

最初、階下で寺の由緒や本願寺御堂の成り立ちを担当者よりお聞きし、柱の林立している広間を見せていただいたが、ただ広いなあという感じだった。二階・三階に上って、その雄大なパノラマを見た驚きは、皆一様に声を上げたくらいのショックだった。お寺の上から眺めるのも初めてだったが、その柱や横柱、桟の壮大な組み合わせは圧巻で、写真などでは表せない、筆舌に尽くしがたいもので、見学者一同が予定時間を大幅に過ぎても質問責めで、担当の方から丁寧にお答えいただいた。

解体修理中の願泉寺の見学（屋根が目の前！）

また、近くの尊光寺にも左甚五郎の子孫という方の飾り物の彫り物に立派なものがあった。寺内町の町並みとしては小振りであったが、願泉寺の工事現場は、他に見られない圧巻だったと見学者一同の意見だった。

今回見逃された方も、ぜひ貝塚観光協会に申し込まれて、見られることをお勧めしたい。　（友の会会員）

連載「浪花百景」～八軒屋夕景～

第3回

仲田　昌宏

豊臣時代に架けられた天満橋と天神橋の中間、大川の南岸にあたるこの地は「八軒家」と称され、その名のとおり八軒の船宿や飛脚屋があったことから出たものといわれる。淀川を下ってきた三十石船がこの浜に着くと、船頭や馬子、旅籠の客を集める声など、昼夜人々の喧騒につつまれていました。古くは平安時代からの「熊野詣」の上陸地として「渡辺の津」といわれ、ここからはるか熊野三山への旅を続けました。

天満橋交差点から西へ70mほど、昆布屋の前に「八軒家船着場石碑」（大阪市顕彰史跡）があり、次の角地に「熊野街道」の石碑が、ここから南への旅をいざなっています。

（友の会会員）

四人の空海と帰国1200年記念 第2回

児見山　繁

遣唐使船について述べてみます。「大宝律令」制定以降の遣唐使船の出航から、空海が出航する回を含めた6回について要約します。

第1回は、西暦702年6月出航、執節使・粟田真人、随行者・山上憶良、道慈らで、唐に約2年間滞在し、704年7月、帰航しました。第2回は717年3月出航、押使・多治比県守、大使・大伴山守、随行者・玄昉らで、四船に557名が乗船し、翌年718年10月に帰航しています。

第3回は733年4月出航、大使・多治比広成、随行者・栄叡、普照らで、794名が四船に乗船し、2年後の735年3月帰航。第4回は752年閏3月船出、大使・藤原河清。この回も四船に500名が乗船しています。帰航は2年後の754年3月です。第5回は777年6月船出、四船で乗船者数は不明で、翌778年10月帰航しました。

次が問題の遣唐使船の船出です。804年7月船出、大使・藤原葛野麻、随行者・橘逸勢、最澄、空海らです。

遣唐使船は702年を除くと、四船の船団で出航しています。四船すべてが帰航していたのではないのです。絶えず海難にあい尊い命が奪われていたのです。命がけの出航です。たった1回のみ四船そろって無事帰航したようです。

ちなみに「井真成（セイシンセイ・日本国での読みはイノマナリ）墓誌」の、唐で「井真成」という名の遣唐留学生は、日本国を西暦717年出航の船で唐に渡り、733年の4月、日本国を出航の遣唐使船団（四隻）で帰国する予定であったのではないかと想像します。無念にも帰国することなく、若く（36歳）して唐にて亡くなりました。（続く）　　（友の会会員）

平成17年度　友の会の活動記録

4月 3日　春のバス旅行・近江八幡　講師:中野学芸員
4月14日　大阪の伝統産業「和太鼓づくり見学会」
5月 8日　大阪周辺の資料館をめぐる　ー泉北地区の歴史散歩ー
5月22日　加賀屋新田会所見学会
6月12日　友の会総会・講演会
「特集展示『発掘!近世大坂ちゃわん工房』・展示のみどころ」
講師:佐藤学芸員
6月23日　大阪周辺の資料館をめぐる　ー岸和田周辺の歴史散歩ー
7月 8日　大阪の伝統産業「錫器工房見学会」
7月24日　中近世の町をあるく「平野で遊ぼう!学ぼう!」
8月27日　古代史講座「難波宮（前期・後期）の建築について」
講師:植木学芸員
9月26日　大阪の伝統産業「松原市の金網工業見学会」
10月18日　中近世の町をあるく「八尾・久宝寺の寺内町」
10月21日　友の会連続講座「近世大坂都市の成立過程と発展」シリーズ
第1回「なにわ大坂ー町の成り立ち」
講師:八木学芸員
11月13日　秋のバス旅行「丹波立杭焼の里と寺社建築をたずねて」
講師:酒井学芸員
11月23日　中近世の町をあるく「富田林の寺内町」
12月 9日　友の会連続講座「近世大坂都市の成立過程と発展」シリーズ
現地を歩く会1（上本町→天満橋）
講師:八木学芸員
12月18日　緊急企画・芝川邸見学会
講師:酒井学芸員
1月20日　友の会連続講座「近世大坂都市の成立過程と発展」シリーズ
第2回「なにわ大坂ー町と町人、町人と商人」
講師:八木学芸員
1月28日・30日　大阪の伝統産業「茶の湯釜工房と深江の苔細工」
2月12日　友の会連続講座「近世大坂都市の成立過程と発展」シリーズ
現地を歩く会2（天満橋→阿波座）
講師:八木学芸員
2月17日　染織の楽しさを知ろう! ー川島織物文化館見学と染色体験ー
講師:中野学芸員
3月 5日　中近世の町をあるく「貝塚の寺内町」
3月 7日　友の会モダニズムツアー　ー大阪の近代美術と近代建築ー
講師:橋爪節也氏（近代美術館準備室）・酒井学芸員
3月31日　友の会連続講座「近世大坂都市の成立過程と発展」シリーズ
第3回「なにわ大坂ー商人の軌跡」
講師:八木学芸員

編集後記

「大阪歴友」春の号をお届けします。振り返ってみると、昨年度はずいぶんたくさんの行事がありました。これらを企画・運営しているのが、会長以下8人の幹事です。毎月1回、右の写真のような感じで会議を開いています。けれども、さすがにこれだけの行事を行おうとすると、少々いまの人数では手が回らなくなってきました。新年度が始まったことでもありますので、新たな幹事さんに加わっていただければと思います。ご協力をよろしくお願いいたします。（事務局:まめ）

●大阪歴友 Vol.4（大阪歴史博物館　友の会だより No.6）
平成18年4月10日発行
●編集・発行　大阪歴史博物館友の会
〒540-0008 大阪市中央区大手前4-1-32